

# 道連ニュース

2022年4月号 No.185

北海道生活協同組合連合会

〒003-0803 札幌市白石区菊水3条4丁目1-3

こくみん共済coop北海道会館内

TEL 011-841-8601 FAX 011-841-8605

URL: <http://www.doren.coop>

北海道・東北7道県の生協連会長理事は、共同の緊急声明

## 「ロシアによるウクライナ侵攻を直ちに中止し、 平和的手段で解決することを強く求めます」

3月8日(火)北海道・東北の7道県連会長理事連名による緊急声明「ロシアによるウクライナ侵攻を直ちに中止し、平和的手段で解決することを強く求めます」を発表しました。またロシア大使館に対して送付を致しました。

### 《提出・発表した声明文》

私たち北海道・東北の生活協同組合は、ロシア政府によるウクライナ侵攻に強く抗議するとともに、ロシア軍の即時撤退を求め、外交による平和的解決を求めます。戦争行為は、いかなる理由を並べようと、無差別・大量殺りくに他ならず国際間の紛争の解決にはなりません。この侵攻は、武力行使を禁止する国連憲章に対する重大な違反であり、ウクライナの民間人の生命および安全に対する権利を深刻に侵害するものです。すでに子どもも含めた多くの一般人の命が奪われ、人々は着の身着のまま逃げ惑い、明日自分の命はあるのかという恐怖に晒され続けています。さらに、プ

ーチン大統領は、軍事侵攻を前に核兵器による威嚇を行い、2月24日の侵攻後には「ロシアは世界で最も強力な核大国の一つだ」と核兵器の使用を示唆しました。核兵器禁止条約の実効性を高めようと努力している国際社会に対し、核による脅迫を行なったに等しい発言です。唯一の戦争被爆国の日本の市民として、また核兵器廃絶を求め運動を続けてきた生活協同組合として、容認することはできません。生協は、「平和とよりよき生活のために」の理念を掲げ、恒久平和と戦争放棄をうたう平和憲法のもと、核兵器も戦争もない世界をめざして平和の取り組みを積み重ねてきました。この戦争が長引けば、人道的な大惨事、制御できないエネルギーや経済の危機がすべての人々に降りかかることは明白です。ロシア政府による軍事侵攻に、私たちは最大限の抗議を表明します。一刻も早いウクライナへの軍事侵攻の中止と国際社会が対話と外交を通じた最大限の努力を行うこと及び戦争に巻き込まれた市民への支援を強く求めます。

## 「ウクライナ緊急募金」の取組みがはじまりました。

昨今のロシアによるウクライナ侵攻を目の当たりにして、思いもなかった戦争の現実に心を痛めている人も少なくないものと思います。両国を分断するコンタクト・ライン（接触線）での戦闘が激化する中、隣国へ避難する難民は350万人以上とも言われ、ウクライナ難民の子供たちの命の危機が迫っております。

北海道ユニセフ協会の呼びかけに応え、3/11(金)より、コープさっぽろ、大学生協、北海道電力生協、あさひかわ福祉生協などでも、ウクライナの子どもたちの命を守るための、募金活動が始まっています。



コープさっぽろ



北大生協



帯畜大生協

# コロナ禍で困窮する学生の現状・変化は？

～大学生協連実施の第57回学生生活実態調査の結果から見えたコト～

## < 調査概要 >

調査実施時期：2021年10月～11月（1963年より毎年秋に実施 ※未実施年あり）

対 象：全国の国公立および私立大学の学部学生

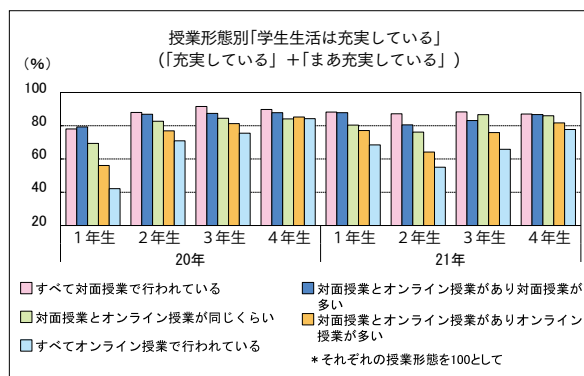
回 収：10,813（30大学 回収率31.4%）

調 査 方 法：Web 調査（郵送またはメールで調査依頼し、Web 上の画面から回答）

## 2020年の学生生活実態調査から見えてきた、学生にとっての3つの危機 【暮らしの危機】・【学びの危機】・【つながりの危機】はどのように変化したのか

### 1. 全体的な特徴

- ①新型コロナウイルス感染症拡大後2回目の調査で、コロナ禍2年目の生活や意識の変化がデータに現れている
- ②2020年調査に比べ「学生生活充実度」「サークル加入」等各種数値が回復したものの、2019年調査（コロナ以前）の水準までは戻っていない
- ③とりわけコロナ禍直後に入学した2年生（2020年4月入学者）は、他の学年に比べて大学生生活の充実度が低いなど、懸念されるデータとなっている。
- ④学年別に見ると、「コロナ禍の学生生活」を大学生がどう受け止めているかによって意識の違いがみられる

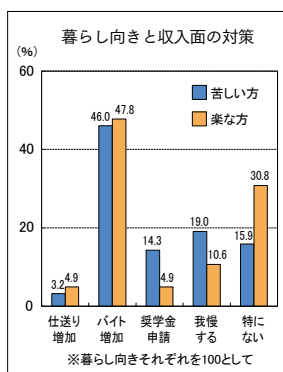


キニヤムに苦慮しているのが伺える

- ②登校日数は地域・大学により大きく異なる
- ③「授業・レポート」の悩みは減少している。「課題地獄」は解消されつつあるように見える
- ④また予復習にかかる時間が増えている。一方で「読書時間0分」は再び増加傾向にある

### 2. 【暮らしの危機】はどう変化したか

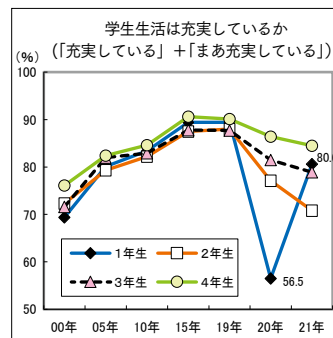
- ①アルバイト収入は20年より回復するも19年に届いていない。
- ②支出の構造的な減少・・・食費/教養娯楽費/交通費の節約傾向
- ③半年間の特別費：「国内旅行」は復活の兆し、「就活」費用は減少傾向、資格取得・衣料品・貯蓄が増加傾向



- ・収入減だが支出も減少のため、平均的には暮らし向きは少し余裕があるように思われる
  - ・一方で家計支持者の収入は「大きく減少+減少」14.0%
- ④コロナ禍以前に比べ、「1日2食」の学生は明らかに増加している

### 4. 【つながりの危機】はどう変化したか

- ①「学生生活充実度」～1年生は大きく回復しているが、2年生の回復が弱いのが気になります
- ②「サークル加入状況」は20年より回復するも19年に届かず。2年生の4人に一人が「所属したことない/今後も入らない」と回答しており、サークル文化の衰退が懸念される。
- ③学生生活を「充実している」と感じる層と「充実していない」と感じる層によって、日常生活の悩みが大きく異なる傾向となっている。



### 3. 【学びの危機】はどう変化したか

- ①「対面授業よりオンライン講義の方が多い」が多数派を占めている。対面授業→オンライン講義の連続カリ

## 北海道内の大学生の変化はどうだったのか

2021年度調査は①北海道大学 ②北海学園大学 ③北星学園大学 ④北海道教育大学 ⑤札幌大学 ⑥酪農学園大学 ⑦札幌学院大学 ⑧小樽商科大学 ⑨帯広畜産大学 ⑩北見工業大学 ⑪釧路公立大学 ⑫室蘭工業大学 ⑬はこだて未来大学 の大学生協加盟の13大学すべての大学で実施（旭川大学生協は、調査実施時点で

は未加盟）した。

北海道内学生の分析はこれから行います。全国データのおよそ半分が北海道内の大学（14/30）データとなりますので、先に報告した全国合計の調査項目～【暮らしの危機】・【学びの危機】・【つながりの危機】について、大きな差異は見られず、ほぼ似たような傾向となっている